# 九州佐賀
# 総合政策研究

2024年
第8号

佐賀地域経済研究会

ISSN 2433-426X

# 九州佐賀　総合政策研究

佐賀地域経済研究会
第 8 号　2024 年（令和 6 年）9 月　目次

## ● 地域課題討議　テーマ【 コロナ禍およびアフターコロナにおける観光動態と経済への影響 】

第 237 回例会報告
**「人流データにみる観光行動の変容と観光地の対応」**
公益財団法人九州経済調査協会調査研究部次長　松嶋　慶祐　…… 1

第 239 回例会報告
**「経済・観光統計の分析・利活用ワークショップ**
**～DATASALAD・RESAS を通じて～」**
公益財団法人九州経済調査協会事業開発部研究主査　渡辺　隼矢　…… 9

佐賀地域経済研究会 例会一覧

KYUSHU SAGA POLICY STUDIES

〔研究会　報告〕

# 人流データにみる観光行動の変容と観光地の対応★

公益財団法人九州経済調査協会　調査研究部次長　松嶋慶祐

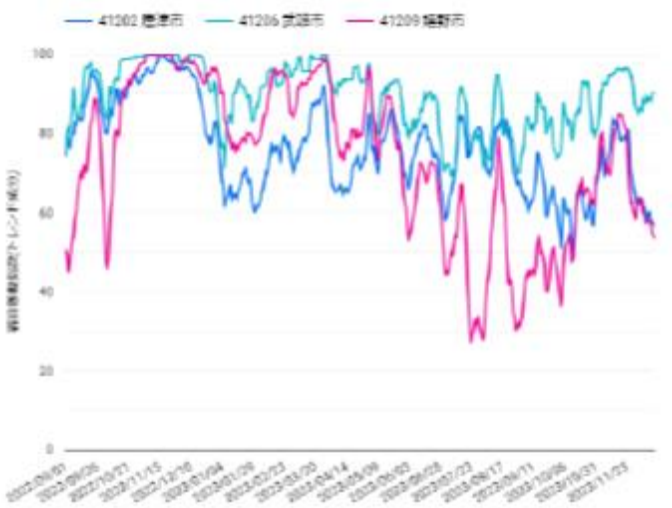
## １．はじめに

九州経済調査協会（以下、「九経調」）は昭和 21 年（1946 年）設立で、九州・沖縄・山口をフィールドに調査研究活動をしているシンクタンクである。自主研究のほか、国・県等からの受託調査や景気報告会やセミナーなどがある。会員向けの図書館は、以前は統計的役割が強かったが、今は経済図書館 BIZCOLI（BIZ COMMUNICATION LIBRARY）として、サードプレイスとしたインターネット時代の図書館をコンセプトに、20 万冊の専門書・資料、年間 60 回以上のセミナーなど、シンクタンクならではの「場」になっている。

九経調 70 周年記念事業として開発した「データサラダ（DATASALAD）」（2020 年サービス開始）は、多様かつ最新の地域経済データを提供する「地域経済分析プラットフォーム」で、政府等が公開する「オープンデータ」やインターネット上の「ビッグデータ」を収集し、地域経済分析に有用な約 70 項目のデータを厳選して掲載している。そして、分析結果を可視化する。例えば、「宿泊稼働指数」を知りたければ、宿泊予約サイトの空室情報をもとに、市区町村別に宿泊施設の日次・稼働状況をみることができる（図表１）。毎日１回、前日のデータを補捉しているので、直近のデータまでわかる。このいち早く状況が見える即時性の高さが評価され、国の景気判断を行う内閣府の「月例経済報告」等にも参考資料として掲載された。

また、「デジタル観光統計を身近に」をコンセプトに、2022 年にサービスを開始した「おでかけウォチャー（odekake-watcher）」は、自治体観光客分析に特化した人流モニタリングツールである。行政・自治体・DMO・観光協会向けに提供しており、観光人流の動きの可視化による観光政策立案ならびに観光施策の効果検証に役立つ。スマートフォン位置情報データと細かくエリアを設定した域内観光スポット情報から、５つの分析（来訪地分析、発地分析、スポット間周遊分析、属性分析、前後別周遊分析）を日次単位で把握することが可能である。

図表 １　唐津市、武雄市、嬉野市の宿泊稼働指数（直近２年間）



出所）九経調「DATASALAD」より引用

## ２．スマホデータにみる観光人流の動き～「おでかけウォチャー」によるコロナ禍の観光行動定量分析～

★ 本稿は、2023 年 12 月 20 日（水）に、佐賀大学で開催された第 237 回例会の報告をまとめたものである。

自主研究レポート「九州経済白書：九州地域の観光復興に向けて」(2023年) で取上げた「おでかけウォチャー」のデータは次の通りである。

・事前にエリアを登録した観光スポット毎の日次来訪者数
・市区町村単位の日次来訪者数
・来訪者数の発地（居住地）
・来訪者の属性情報（性・年齢 20～60 歳代）
・観光スポット間の周遊数

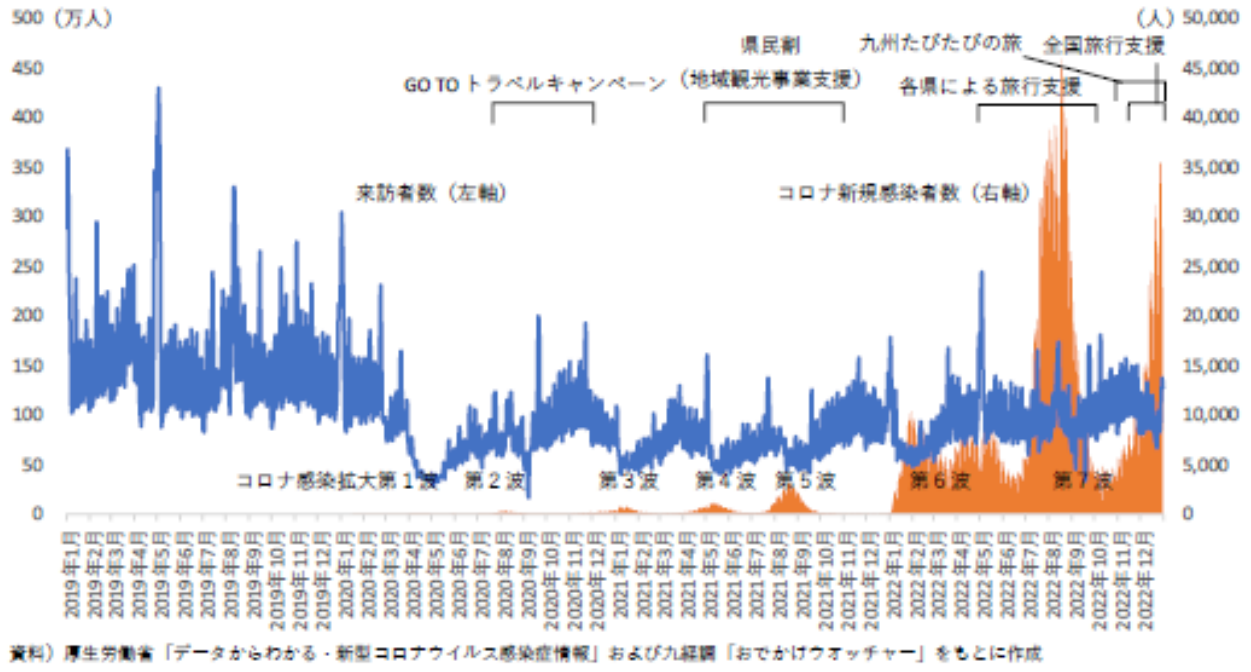
分析対象は、九州地域（九州、沖縄県、山口県）の全市区町村で、観光レビューサイト Tripadvisor におけるレビュー数上位の観光スポット、各県観光連盟 Web サイトの観光地紹介ページに掲載されている観光スポットを中心にした 1,154 カ所で、期間は 2019 年 1 月～2022 年 12 月である。

取材はコロナ前、コロナ禍、コロナ後にまたがり、観光による人流がどのように変化したのか、九州全体、市区町村レベル、特定スポットでマクロ的に分析した。これまでの観光統計の課題は、来訪者をカウントする方法と調査から報告まで時間がかかることであったが、「おでかけウォチャー」はそれらを解消した。2023 年 2 月に刊行した本レポートは、直近の 2022 年 12 月までのデータを使って編集することができた。また、コロナの緊急事態宣言中で、アフターコロナの観光の動きがどうなるか微妙な時期だったが、ビッグデータを使うと、今、足元で何が起きているかを示すことができ、今後は人流をとめないで観光が本格的に復興するのではないかと予測した。

### 2.1　県別・市町村別の来訪者の変化

図表２は、コロナ禍の九州地域への日本人の来訪者数の動きを示している。コロナ感染拡大の第１波から第５波までは、感染拡大の波に合わせて実施された行動制限により減少したが、感染者数が減少する局面や旅行支援策の実施期間では回復もみられた。第６波と第７波の感染拡大はかなり大きかったが、行動制限が実施されなかったこと

**図表２　　九州地域への来訪者の推移**




資料）厚生労働省「データからわかる・新型コロナウイルス感染症情報」および九経調「おでかけウォッチャー」をもとに作成

図表３　九州各県の来訪者の推移

（単位：万人、％）

| | 来訪者数 | | | | 2019年比 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 |
| 全国 | 498,990 | 250,748 | 207,247 | 274,755 | ▲ 49.7 | ▲ 58.5 | ▲ 44.9 |
| 九州地域 | 54,957 | 31,453 | 26,481 | 34,530 | ▲ 42.8 | ▲ 51.8 | ▲ 37.2 |
| 福岡県 | 22,393 | 12,006 | 10,209 | 13,430 | ▲ 46.4 | ▲ 54.4 | ▲ 40.0 |
| 佐賀県 | 3,854 | 2,287 | 1,935 | 2,393 | ▲ 40.7 | ▲ 49.8 | ▲ 37.9 |
| 長崎県 | 3,593 | 2,096 | 1,720 | 2,372 | ▲ 41.6 | ▲ 52.1 | ▲ 34.0 |
| 熊本県 | 5,869 | 3,808 | 3,351 | 4,083 | ▲ 35.1 | ▲ 42.9 | ▲ 30.4 |
| 大分県 | 3,819 | 2,316 | 2,007 | 2,572 | ▲ 39.4 | ▲ 47.4 | ▲ 32.7 |
| 宮崎県 | 2,368 | 1,487 | 1,293 | 1,592 | ▲ 37.2 | ▲ 45.4 | ▲ 32.8 |
| 鹿児島県 | 4,085 | 2,471 | 2,074 | 2,586 | ▲ 39.5 | ▲ 49.2 | ▲ 36.7 |
| 沖縄県 | 5,188 | 2,661 | 1,849 | 2,965 | ▲ 48.7 | ▲ 64.4 | ▲ 42.8 |
| 山口県 | 3,790 | 2,321 | 2,042 | 2,537 | ▲ 38.8 | ▲ 46.1 | ▲ 33.1 |

資料）九経調「おでかけウォッチャー」をもとに作成

と各県における旅行支援によって来訪者数は大きく減少せず、全国旅行支援や「九州たびたびの旅」の効果も後押ししてコロナ禍前の水準に回復しつつあった。

県別の来訪者数をみると（図表３）、最も減少したのは沖縄県、続いて福岡県、長崎県である。沖縄県は人口当たりのコロナ感染者数が多くて旅行支援策の対象地域から外れていたこと、福岡県はビジネス客・長崎県は観光客の減少が起因している。全国的にも、大幅に減少しているのは三大都市圏および観光県である。観光地でみてみると、知名度が高い佐世保市、別府市、由布市などは減少が大きい。福岡県でも久留米市、太宰府市、久山町などのビジネスや観光のスポットの減少が目立つ。しかし、うきは市や朝倉市は増加または減少が緩やかであった。両市へは、道の駅やゴルフ場などの来訪者が多く、福岡都市圏から１～２時間圏内の日帰り観光、マイクロツーリズムを上手に取り込んだものと思われる。

観光スポットにいつ訪れるかを年代別にみてみると、御船山楽園や秋月城跡、太宰府天満宮など、紅葉や花など季節性の要素が高い時期（ピーク期）は、高齢者の割合が多い。一方、オフシーズン期は 20～30 代が多く、飲食・個人の趣味・嗜好など季節性の低い要素を好む傾向があると推察される。高齢者層と若年層では、同じ場所でも楽しむ観光のあり方に違いがあることがわかる。

2022 年の来訪者増減率（2019 年比）によると、増加率が高かった地域は、先述のマイクロツーリズム効果のうきは市や朝倉市のほかに、沖縄県や鹿児島県の離島地域や、自然災害からのインフラ整備の復旧でアクセスが向上した阿蘇市とその周辺地域、五木村などがあげられる。

2022 年 10～12 月まで実施された全国旅行支援も、全体的に来訪者の増加を後押しした。特に 50 代が最も伸び、次に 30 代・60 代で、幅広い年齢層の需要を刺激した。

## 2.2　観光スポット別の来訪者の変化

九州の主要な商業地区やショッピングセンター、有名観光地や温泉地など大半のスポットで大幅に減少している。そこで、対象スポットを 16 のジャンルに分けてみてみると、遠距離での旅行が敬遠された「ホテル・旅館」や人混みを避ける傾向から「エンタメ・アミューズメント」・「動植物園・水族館」は低下し、アクティビティを伴う「自然資源」、自然とマイクロツーリズムを兼ねた「温泉・スパ」、道の駅・農水産物直売所の「ショッピング・サービス」が上位を占めた。また、新規開業施設やリニューアルした施設、災害復興によるアクセス向上のスポットなども増加している。

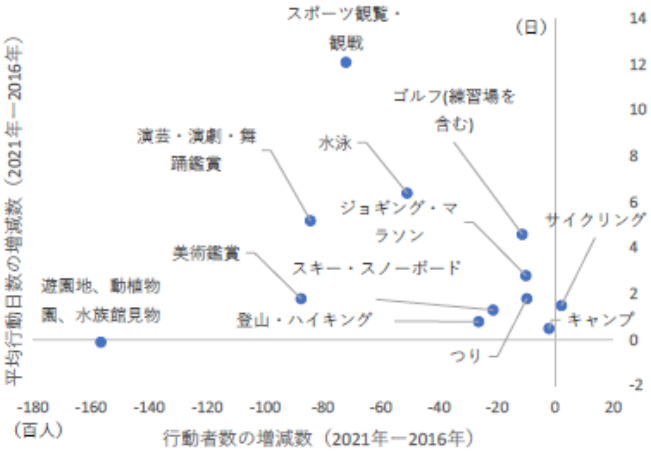
令和３年総務省社会活動基本調査によると、趣味やスポーツ活動では（図表４）、行動者の数は減少したが、平均行動日数は増えていることがわかった。これは、同じ人が繰り返し行動する「熱心なファン」によるものである。この増加するリピーターを趣味・スポーツとの関連性が強いコンテンツツーリズムによって獲得するのがポイントである。

旅行目的の選択では（図表５）、アウトドア・アクティビティが再注目され、キャンプやサイクリングなどが選ばれている。自然の風景をみる旅行

や温泉浴が旅行の主目的として人気であるが、ドライブや登山、釣り、水泳なども増加している。密集を避けながらも旅行行動の増加によるアウトドア・アクティビティ市場の拡大は、新商品や新ブランドの投入などでコロナ収束後も継続できると推察する。

趣味・スポーツと同様に、観光目的でなくても集客が見込める新たなスポットもある。また、そのスポットは若者層が多く、来訪を促す機能にもつながることがみえてきた。事例として、竈門神社（太宰府市）や大山ダム（日田市）がある。両者とも人気コミック・アニメによるもので、前者はコミック発祥の地・聖地として、後者は原作者の地元で、そこにアニメに関連した銅像ができたことから、ファンが全国から訪れるようになった。また、これまで県や市の観光統計に掲載されていないスポット、例えば、針尾無線塔（佐世保市）は、ドラマで登場したのをきっかけに注目を集めた。このようなコンテンツツーリズムやインスタ映えスポットにも注目すべきである。

図表４　趣味・スポーツの行動者数、平均行動日数の変化

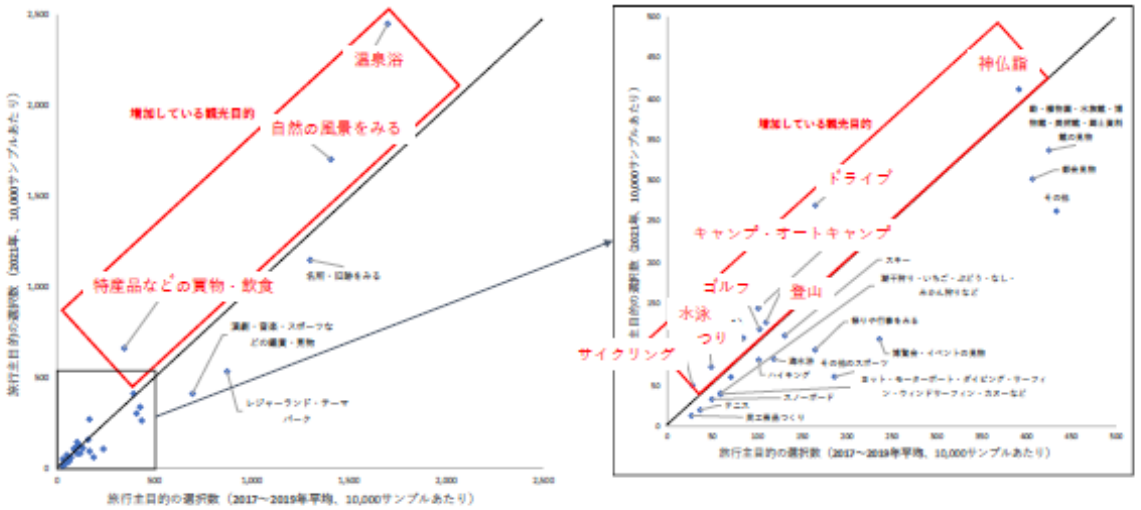



## ３　西九州新幹線の開業効果～「おでかけウォチャー」による速報～

コロナの収束に伴う回復の兆しの要素もあり、単純にインフラ整備の効果だけとは言えないが、西九州新幹線の駅がある、武雄市、嬉野市、長崎市、諫早市、大村市をみてみる。

来訪地からみてみると、全市とも増加傾向にある。スポット別では（図表６）、佐賀県の御船山楽園や吉野ケ里公園、祐徳稲荷神社などが開業前に比べ増加率が上昇し、新幹線沿線のみならず、新幹線駅を拠点にして、周辺観光地にも客が流れているといえる。

図表５　旅行目的の選択数(旅行者１万人当たり)




注）同調査は年次によって年代毎のサンプル数に偏りがあるため、本図表の値は、年代毎のウエイトを、国土交通省「旅行・消費動向調査」の実旅行数で補正し再計算したもの
資料）（公社）日本観光振興協会「観光の実態と志向」をもとに九経調作成

図表６　西九州新幹線開業後の観光人流変化　　（来訪地分析）

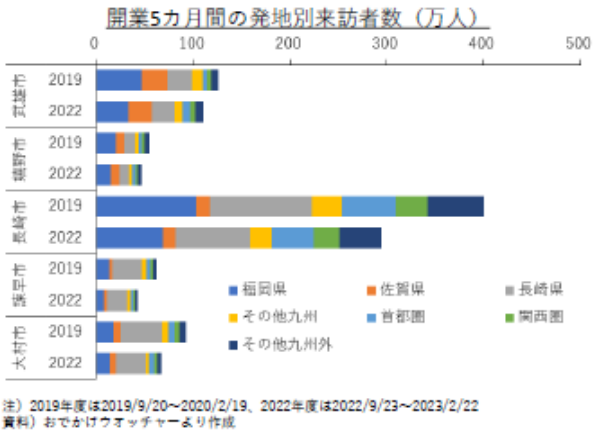
スポット別来訪者数の変化　　単位：人

| スポット | 開業前 (6/23～9/22) | 開業後 (9/23～12/22) | 増減率 |
|---|---|---|---|
| ハウステンボス | 454,023 | 659,799 | ＋45.3% |
| 嬉野温泉 | 429,660 | 583,251 | ＋35.7% |
| 鳥栖プレミアム・アウトレット | 426,094 | 542,469 | ＋27.3% |
| 新地中華街 | 286,451 | 389,911 | ＋36.1% |
| 虹の松原 | 191,946 | 205,645 | ＋7.1% |
| 武雄市図書館 | 167,833 | 198,446 | ＋18.2% |
| 雲仙地獄 | 149,499 | 255,952 | ＋71.2% |
| 佐賀県立佐賀城本丸歴史館 | 127,377 | 174,307 | ＋36.8% |
| 呼子の朝市 | 110,103 | 136,164 | ＋23.7% |
| 島原城 | 108,102 | 135,823 | ＋25.6% |

| スポット | 開業前 (6/23～9/22) | 開業後 (9/23～12/22) | 増減率 |
|---|---|---|---|
| 九十九島水族館海きらら | 107,479 | 117,495 | ＋9.3% |
| 武雄温泉 | 105,804 | 179,665 | ＋69.8% |
| 祐徳稲荷神社 | 74,867 | 143,329 | ＋91.4% |
| 波佐見やきもの公園 | 64,894 | 90,030 | ＋38.7% |
| 吉野ヶ里歴史公園 | 60,674 | 134,822 | ＋122.2% |
| 唐津城 | 59,623 | 92,036 | ＋54.4% |
| 御船山楽園 | 37,440 | 114,884 | ＋206.8% |
| アリタセラ | 25,797 | 47,879 | ＋85.6% |
| 九州 ※ | *61.6* | *70.2* | ＋14.0% |
| 全国 ※ | *57.0* | *60.5* | ＋6.0% |

※九州・全国はおでかけ指数（市区町村別来訪者数の2019年比）の期間平均を示す

図表７　西九州新幹線開業後の観光人流変化　　（発地分析）




注）2019年度は2019/9/20～2020/2/19、2022年度は2022/9/23～2023/2/22
資料）おでかけウォッチャーより作成

開業5カ月間の発地別来訪者数
（2019年度同期に対する変化率）

| | 全発地 | 九州内 | | | | 九州外 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 福岡県 | 佐賀県 | 長崎県 | | 首都圏 | 関西圏 |
| 武雄市 | -12.4% | -19.3% | -29.0% | -9.7% | -6.7% | 33.5% | 79.7% | 20.4% |
| 嬉野市 | -14.6% | -15.9% | -24.8% | 6.8% | -10.6% | -9.5% | 13.2% | 4.2% |
| 長崎市 | -26.5% | -28.8% | -33.3% | -10.5% | -26.4% | -22.5% | -20.7% | -18.7% |
| 諫早市 | -30.2% | -31.5% | -39.6% | -0.4% | -32.0% | -23.7% | -29.0% | -39.7% |
| 大村市 | -27.0% | -26.5% | -20.0% | -13.0% | -30.1% | -28.9% | -25.7% | -37.3% |

注）2019年度は2019/9/20～2020/2/19、2022年度は2022/9/23～2023/2/22
資料）おでかけウォッチャーより作成

次に、どこから来ているのか、発地をみてみると（図表７）、福岡県など九州圏内からの来訪者数の変化率（2019 年比）は減少のままだが、首都圏・関西圏からは、佐賀県の武雄市・嬉野市は増加している。そこで、両市の来訪者がどこを周遊したかを分析すると、武雄温泉・御船山楽園・嬉野温泉・肥前夢街道などの域内間周遊と、佐賀市や武雄･嬉野の温泉､鹿島市の祐徳稲荷や道の駅太良、長崎県のハウステンボスや佐世保・波佐見などの域内・域外周遊のどちらもあった。

開業に合わせて「佐賀・長崎デスティネーションキャンペーン」が実施され、来訪者 255 万人、経済波及効果は 326 億円と算出された。イベントなどの評価を経済波及効果で表すことがよくあるが､「おでかけウォチャー」のビッグデータからもわかること、また、キャンペーン終了２ケ月後には公表できるスピードも再確認された。

## ４．アフターコロナの観光復興に向けた取組み

これからの観光地づくりに求められる次の３つの論点とその事例を紹介する。

・地域資源の再編集による魅力向上
・新たな人の流れを生み出す仕組みづくり
・主体的な事業者間連携による観光地づくり

### 4.1　地域資源の再編集による魅力向上

コロナ禍で起きた新しい変化は、コロナの収束

とともに元に戻る可能性もあるが、趣味・旅行目的の多様化が進む中で、新たな選択肢が増えたと捉えることもできる。時代やトレンド、年齢層によって趣味・旅行目的が変わることが明確になった。有名な観光スポットに行く以外にも、今はアニメの聖地巡礼のような新しいスポットもある。地域資源の活用は、これまでも大切な事項であったが、いかに時代・トレンドの変化に合わせられるか、見せ方を工夫して新たな魅力をどのように演出していくのか、常に再編成を行うことが必要である。

### 4.1.1　歴史・文化コンテンツの再編集による高付加価値サービス

嬉野市の温泉旅館と茶農家が連携した「ティーツーリズム・嬉野茶時」は（写真１）、嬉野の伝統文化であるお茶（嬉野茶）、焼き物（肥前吉田焼）、温泉旅館を組み合わせて、新しい嬉野の魅力を発信するプロジェクトである。1 泊 15 万円とハイエンドなサービスだが、プレミアムな体験をしたい顧客層を獲得している。

阿蘇の「牧野ガイドツアー」（写真２）は、1000 年以上も続く野焼きで維持してきた牧野の牧草地帯を守るため、牧野のフィールドにスポーツツーリズムを実践した取組みである。最近はコスプレイベントも開催し、人工物が写りこまない写真が撮れると好評とのこと。スポーツだけではない多様なファンコミュニティのニーズを捉えて「阿蘇ファン」を増やしている。まさに、地域資源の再編集といえる。

### 4.1.2　アドベンチャーツーリズムによるインバウンド集客

外国人向けに九州地区の魅力的な自然や歴史、文化を感じることができるウォーキングツアーで（写真３）、地元住民と触れ合い、日本の文化や

写真１　茶畑で茶師によるお茶の提供の様子

写真２　牧野ガイドツアーの様子

写真３　ウォーキングツアーの様子

原風景に溶け込むような体験がコンセプトで、東京や大阪の都会では味わえない内容で付加価値を高めている。宿泊先は高級旅館ではなく、民泊やテントであるにも関わらず、ツアー代金は１日 45,000～70,000 円、総額 30 万円超になるものもあり、一般的なツアーに比べるとかなり高額である。しかし、体験価値が評価され、常に予約が埋まっている状況で、リピーターも多く、地域復興の切り口になっている。

写真４　地下施設での体験教育プログラムの様子

写真５　温泉ワーケーションの様子

#### 4.1.3　地域の学びを通じたコンテンツ造成

コロナ禍での話題に修学旅行の中止があったが、修学旅行の誘致に積極的に取組んだ事例がある。

熊本県錦町は、地域を紹介するパンフレットもなく、宿泊施設は民宿が１軒という、観光には程遠い地域であったが、コロナ前の 2018 年に戦争関連遺跡を活用した平和体験教育による観光地づくりを推進し始めた。体験型ミュージアムの展示以外に、写真４のように実際に兵器を作っていた地下施設などに入ることができることから、平和教育だけでない需要の獲得に成功した。また、小規模な体験教育プログラムを造成し、体験型や蜜を避ける分散周遊であることが評価され、関東や関西からの修学旅行客も獲得でき、年間 20,000 人を超える集客施設になった。戦争遺跡の活用は、知覧（鹿児島県）や太刀洗（福岡県）があり、かなり後発ではあるが、地域資源を上手く活用し観光客を取込むことができている。

### 4.2　新たな人の流れを生み出す仕組みづくり

#### 4.2.1　地域資源の見直しで新たな人の流れの創出

古民家や武家屋敷を宿泊施設にしたり、酒蔵の一部を小規模なホテルにしたりなど、高級業態の宿泊施設としての再利用が各地で散見している。

#### 4.2.2　ワーケーションを通じた仕事づくりで新たな人の流れを創出

嬉野市の温泉旅館を拠点にした「温泉ワーケーション」は（写真５）、温泉付きワーケーションスペースで、かなりマスコミに取り上げられた。この取組みがユニークなのは、ワーカーへの空きスペースの新たな場の提供だけでなく、企業誘致のプロモーション事業を実施したことである。短期的なワーケーションだけでなく、ここをオフィスとして恒常的に活用する、温泉旅館の観光資源からオフィス需要を生み出し、新しい人の流れを創出した。

### 4.3　主体的な事業者間連携による観光地づくり

#### 4.3.1　事業者主体の観光地づくり＝まちづくり

長門市の長門湯元温泉（山口県）は、2014 年に老舗大型ホテルが廃業し、地域の衰退が危ぶまれた。そこで、民間専門家と地域の事業者が主体となって観光事業に取り組んだ。

恩湯（おんとう）という公衆温浴施設は岩の切れ目から自然に沸き起る温泉で、湧いている音・水音を聞くことができ、目と耳で楽しめる数少ない温泉地である。そこで、ここをリニューアルした。また、20 年以上も新規店舗の立地がなく、近くに有名な萩焼の窯元があるのに、その焼き物

写真６　官民連携の観光地づくり、川床の様子

写真７　店舗型ふるさと納税の例

を買う店もないことから、温泉街の若旦那たちが中心になって再生を手掛けた。写真６の川床は、食事もできるテラスのようなところで、行政がハード整備面で後押しした。川の上や道路に何かを建てることは大変難しい手続き等があり、それを行政主導でやったことは成功要因の１つといえる。

### 4.3.2　地域内での消費を促す仕組みづくり

一般的に、ふるさと納税はネットを使って申し込むが、訪れた店舗や施設で直接ふるさと納税を行い、その場で返礼品を受け取るサービス「ふるさとズ」がある（写真７）。訪れた現地の魅力からモノや体験の返礼品を選ぶため、本来の主旨に沿った仕組みを創出しており、送料や発注管理もなく、小規模事業者にとってメリットが大きい。

そのほか、新たな流れを生み出す仕組みとして、「域内外の連携による観光地づくり」や「観光による地域課題解決への貢献」がある。

## ５．おわりに

これからの観光戦略には、次の３つのポイントがあることがわかった。

①スマホデータにみる観光人流の動き

観光需要や人の流れは、今回のコロナ以外にも自然災害や不景気などのさまざまな要因で変化することが再確認された。観光地は、そのような変化やトレンドをいち早く捉え、それを踏まえた新たな取組みを造成し、いかに情報発信するかが重要になっている。変化やトレンドをキャッチする観光行動は、社会・経済の成熟と連動しており、個人の興味が多様化・複雑化してきている。観光目的や観光スポットが拡大し、人流は多岐に及ぶ。そこを可視化されたデータ分析を使って、スピーディに的確に把握することが非常に大切になってきている。

②西九州新幹線の開業効果

西九州新幹線の開業というインフラ整備が集客に結びつき、周辺地域にも影響があることがわかった。今度とも、足元がわかるビッグデータの活用を推進したい。

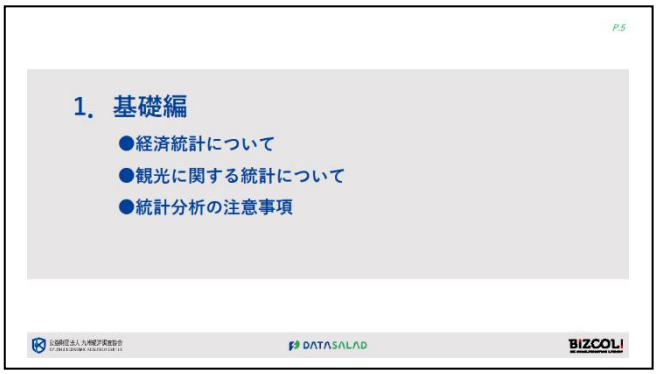
③アフターコロナの観光復興に向けた取組み

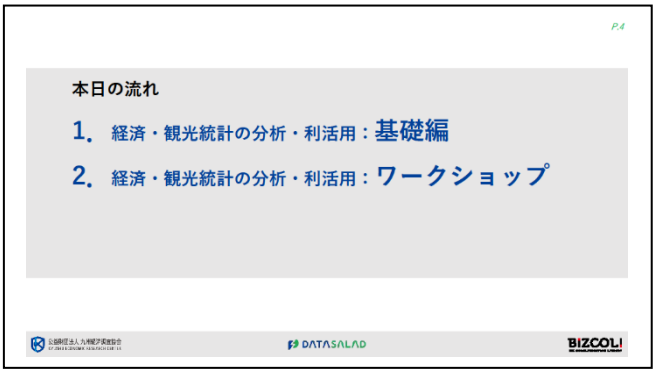
全国各地でさまざまな取組みがなされている。おもしろい事例があれば、ぜひ教えて欲しい。

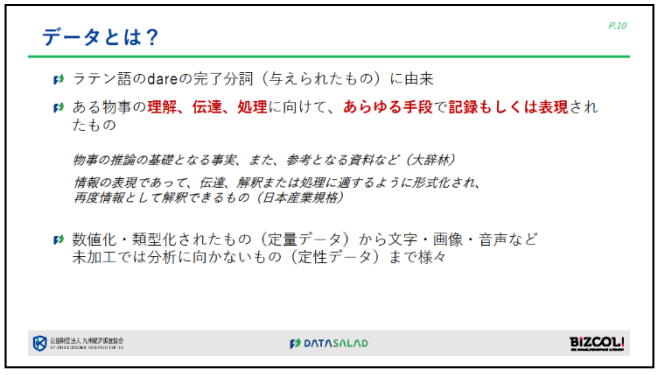
〔研究会　報告〕

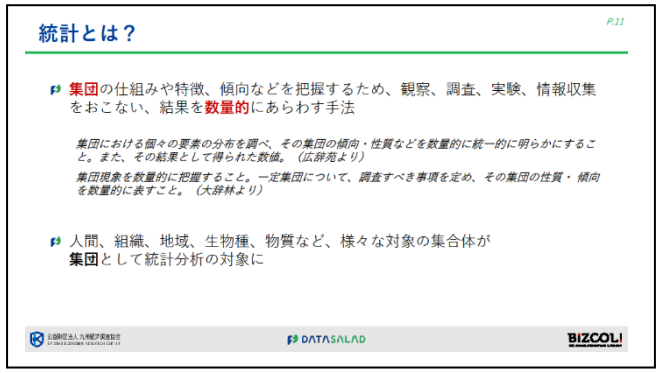
# 経済・観光統計の分析・利活用ワークショップ
## ～DATASALAD・RESAS を通じて～

公益財団法人九州経済調査協会　事業開発部研究主査　渡辺隼矢





## 似たような言葉で･･･

P.12

「情報」：
ある物事の内容や事情についての知らせ、また受け手に状況に対する知識や適切な判断を生じさせるもの

「指標」：
物事を判断したり評価したりするための目印として数値化したもの

物事に対してあらゆる手段で記録・表現されたの **データ** ⇒ 分析・判断の材料として集合知したもの **情報** ⇒ 判断・評価の目印となるよう数値化したもの **指標** ⇒ 集団の特徴・変化を把握するもの **統計**



## 統計の種類・分類：①作成機関による分類

P.13

一般用語として、各機関で実施される、統計を作成されるために実施する調査（統計調査）を統計と呼び、様々な尺度から分類される。統計を用いる際は、その統計がどこに分類される（→どのような特徴をもつ）ことを把握することが重要である

**公的統計**
国や地方公共団体等により定期的に作成・集計・公表されている統計
とりわけ、統計法によりとりわけ重要と定められた53の統計は「基幹統計」と呼ばれる

**民間統計**
民間が作成・公表する統計
業界団体やデータホルダーが集計し公表するケースが多い

**世界統計**
国連（およびUNICEF、IMFなどの専門機関）やOECD、世界銀行などの国際機関により取りまとめられた、国・地域別の統計データ



## 統計の種類・分類②：作成手法による分類

P.14

**調査統計**
調査対象となる個人や世帯、企業などから、調査票を通じて情報入手し、項目別の回答数や平均値などを公表するもの（例：国勢調査、経済センサス）

**業務統計**
登録、届出、業務記録など、行政機関や民間団体が行政上、あるいは業務上の必要から集めた、もしくは作成した業務記録をもとに作成するもの（例：貿易統計、建築着工統計）

**加工統計**
複数の調査統計・業務統計を加工計算して推計したもの（例：GDP（国民経済計算））



## 統計の種類・分類③：調査方法による分類

P.15

**全数調査**
調査対象となる母集団の全てを対象として実施する調査（例：国勢調査）
※調査の手間と費用が膨大になるため、統計に占める全数調査の割合はごく少数
※調査への未回答もあるため、実態としては少なからず推計を含む場合も

**標本調査**
母集団の中から抽出した標本を調査し、全体の数を推定する（例：テレビ視聴率）
※標本の数や抽出方法によって信頼性（精度・変化量）が異なる
※統計では標本替え（調査対象の変更）の影響も

全数調査と標本調査が混合する統計調査も
例）「宿泊旅行統計調査」
従業員数10名以上の施設は全施設を対象に調査票送付（全数調査）
従業員数4名以下は1/9、5～9名は1/3の施設を対象に調査票送付（標本調査）



## 経済統計（経済の動きを捉える統計）

P.16

経済活動（生産、流通（移動）、消費）を捉える統計を**経済統計**という

経済統計の例

**経済センサス**
事業所及び企業の経済活動の状態、および日本の包括的な産業構造を明らかにすることを目的に、基礎調査・活動調査を各５年毎に実施

**国民経済計算/県民経済計算**
国・地域の経済活動を巨視的・包括的に捉える統計。主な指標として、一定期間内に産出された付加価値の総額を算出した国内総生産（GDP）/ 域内総生産（GRP）など

**【参考】人口統計（国勢調査、住民基本台帳人口/人口移動）**
経済活動そのものではないが、人口の多寡/構成/増減は（特に地方の）経済活動に大きく寄与



## 観光に関係する政府統計

P.17

- 主に都道府県単位での宿泊・入込・入出国に関する統計のほか、観光消費の実態に関するマクロ的な調査を実施
- 観光行動の詳細な分析や地域の受け入れ体制分析には、政府統計では不十分

**観光に関する主な政府統計**

**宿泊旅行統計（月次）**
ホテル・旅館の宿泊者数・稼働率を把握する（キャンプ場等は除く）

**旅行・観光消費動向調査、訪日外国人消費動向調査（年次）**
日本国内居住者・訪日外国人観光客の旅行・観光における消費実態（旅行回数・訪問先・旅行支出額など）を把握する

**出入国管理等計（月次）**
空港・港湾の外国人・日本人の出入国者数



## 観光施策評価に用いる指標の例

P.18

目標指標（長期系）　赤字はKGIへ展開に用いられる指標
項目例
A. 持続可能なマネジメント
- 運営組織の収支
- プロモーションの実施と成果
- 危機管理（災害・テロ・感染症等）対策状況（計画整備・訓練）
- 受入環境整備状況
  （Wi-fi、トイレ、キャッシュレス、多言語案内）
- 多様な宗教・生活習慣対応
  （ムスリム、ベジタリアン、身体障害、LGBT等）

B. 社会経済のサステナビリティ
- **来訪（滞在）者数・観光消費額**
- 関心度・旅行者満足度（全体、コミュニティ別）
- **関係人口**（リピーター率、ふるさと納税、ボランティア参加）
- 移住・定住人口、起業件数
- 雇用創出
- **住民満足度**

C. 文化的サステナビリティ
- （有形・無形）文化財保護・利活用状況
- ガイド利用状況・満足度

D. 環境のサステナビリティ
- ゴミ・CO2排出量、生態系・水資源管理
- 利用交通手段（脱自家用車への誘導）
- 自然保護活動数・参加人数

モニタリング指標（短期系）
A. 観光客の興味・関心・評価
- Web検索数・SNS投稿数・動画閲覧数
- 記事へのアクセス件数、滞在時間
- 公式SNSフォロワー数

B. 観光客の来訪
- 観光来訪者数（スポット、発地（国籍）、性年齢、月・日・時間帯別）
- 周遊状況・滞在時間（スポット、発地（国籍）、性年齢、月・日別）
- 宿泊者数（施設、発地（国籍）、性年齢、グループ構成、プラン別）
- 来訪・利用交通手段（来訪手段、域内移動手段、拠点利用人数）
- イベント参加者数

C. 観光客の消費
- 店舗（道の駅）販売状況（商品ジャンル別、購入属別）
- ツアー・アクティビティ等申込状況
- 消費単価（観光客あたり、店舗あたり）

D. 観光地運営
- 事故・犯罪件数
- 交通機関利用状況、渋滞・混雑状況
- 駐車場利用者数、相談内容

＋地域の事情に応じた指標
例）特定エリアへの周遊状況、ターゲット層の来訪者数、地域産品の域外展開

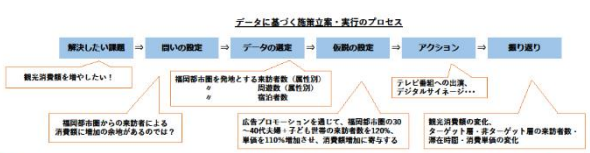
⇒**統計（統計加工）、ビッグデータ、アンケート、ヒアリング**を用いて検討・検証を実施



## 分析に基づく施策の実践・検証

P.19

- 統計・データをに基づく施策を検討・実行する場合は、分析実施の前に、一度立ち止まり、分析手順を明確にすることが重要です。特に「何が明確になれば良いのか」「どのような施策に落とし込めそうか」を思考すると分析がしやすくなります
- 域内における旅行消費拡大を目的する場合は来訪者数と客単価に分ける等、課題や問いを分解することで、より実りのあるデータ分析に繋がります
- また、事後の振り返りを通じて、次の施策実施に向けた打ち手の検討に繋げます






## 統計・データ分析のアプローチ

P.20

統計・データを分析する際は大きく、**全体を見渡す、分ける・比べる、変化や関係を探る、予測する**の４視点から、データの特徴や傾向を捉えます。データをみながら、**何と何を比較するのか、どこに**差（**多い・少ない、増えた・減った**）を見いだすのかを考えます

**比較に基づく分析の例**
- 来訪者の増加率が高い観光スポット
- 月別・曜日別にみた来訪者数の集中度合い
- 発地別来訪者数が人口比で多い地域
- 来訪者の属性比率が変化したスポット・時季
- 近隣かつ各スポットの来訪者数は多いが、周遊数は少ないスポット間

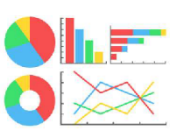
･･･etc.



## 分析の注意事項：①課題・施策と指標の関係整理

P.21

- 課題や問いに対して分析・検証指標を設定した際、実際に施策が指標へどのように作用するか、またその指標がどのような要因で変動するか、検証段階では考慮する必要があります
- 例えば「リピーター率」をモニタリングした場合、リピーターの獲得の施策は上昇に寄与しますが、新たな客層の開拓の施策は低下に寄与します
- また、施策（例えば、観光満足度の上昇）の効果のみならず、発地の比率変化、メディアへの露出、周辺観光地の動向、新規施設の開業など、様々な要因で変化します



## 分析の注意事項：②指標の定義再確認

P.22

- 指標に統計やビッグデータを用いる際は、どのように調査が実施されているか、用語や値がどのように定義されているのか、予め把握しておくことが重要です
- また指標を計算により加工する際は、データの定義などから、その計算プロセスの妥当性を振り返る必要があります

例①

ある地域での
日帰り客の観光消費単価：5,000円
宿泊客の観光消費単価：15,000円

全体の観光消費単価は？

A. 5,000+15,000 ＝ 20,000円 ×

A. (5,000+15,000)/2 ＝ 10,000円 ×

A. 日帰り客と宿泊客の実人数が分からないと算出できない ○

例②

ある地域での
人流データに基づく延べ観光来訪者数：2,000万人
統計に基づく延べ宿泊者数：100万人泊

地域に訪れた日帰り観光客数は？

A. ・延べ来訪者数の定義とビッグデータの精度
・延べ宿泊者の平均泊数
・日帰り客と宿泊客の１日あたり訪問施設数
などを確認しながら、慎重に検討する必要がある



P.23

## 政府が提供する
## 統計分析プラットフォーム



## e-Stat（政府統計の総合窓口）

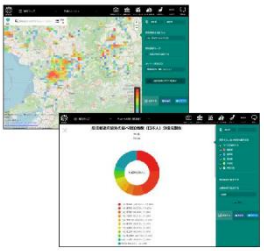
P.24

- 総務省統計局が整備
- 政府が公表する統計調査結果の表示、ダウンロードが可能
- Excelデータのほか、一部統計調査では必要な情報を選択、図表レイアウト変更したうえでの表示・ダウンロード（DB形式）、プログラムを通じたデータ取得（API形式）も利用可能

## RESAS（地域経済分析システム）

P.25

- 内閣府地域経済産業室が提供
- 地域経済に関する統計・ビッグデータを地図・グラフで表示
- 位置情報データに基づく滞在地点、経路検索回数に基づく目的地分析、宿泊者の発地都道府県分析、外国人の滞在分析など、観光にまつわるビッグデータを無料で閲覧可能





## jSTAT MAP（統計地理情報システム）

P.26

- 総務省統計局が提供
- 都道府県、市区町村、小地域、メッシュ毎の統計の結果を地図上に表示
- 項目別動向をまとめた「リッチレポート」出力機能も
- 国勢調査、経済センサス、事業所・企業統計調査など15の統計に対応

P.27

## 九経調が運営する
## 地域経済分析プラットフォーム
## DATASALAD（データサラダ）



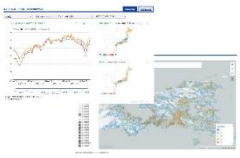
## DATASALAD（データサラダ）について

P.28

DATASALAD

datasalad.jp

- 九経調70周年記念事業として開発（2020年4月1日サービス開始）
- 多様かつ最新の地域経済データを提供する「九州地域経済分析プラットフォーム」
- 政府等が公開する「オープンデータ」やインターネット上の「ビッグデータ」を収集・可視化
- 九州地域（九州・沖縄・山口）をはじめ全国各地の地域に密着したデータをクラウドのデータ基盤でご提供





## コンセプトとターゲット

P.29

コンセプト

## 掲載データ

P.30

### 景気指標

**宿泊稼働・人流**
- 宿泊稼働・人流
- 宿泊施設稼働状況、同マップ
- おでかけ指数、同マップ
- 都道府県別主要地点・繁華街人流変化
- 場所カテゴリ別人流変化（Google）

**景気予測・経済計算**
- 都道府県CI・予測CI
- 景気動向指数（内閣府）
- 域内総生産（都道府県）
- 世界GDP成長率
- 九州長期GRP予測
- 九州短期GRP予測

**景況・業況・企業動向**
- 景気ウォッチャー
- 短観 業況判断DI
- 短観 利益計画
- 企業業績（法人企業統計）

**金融・商品・物価**
- 為替レート
- 商品価格
- 企業物価指数
- 消費者物価
- 建設工事費デフレーター

**生産・貿易**
- 鉱工業生産指数
- 品目別工業生産
- 輸出入額（概況）
- 第3次産業活動指数

**個人消費・旅行**
- 地域別消費総合指数
- 業態別小売販売額
- 消費支出（用途・品目）
- 家計収支
- 宿泊施設延べ宿泊者数
- 九州観光DI
- 出入国者数

**雇用**
- 就業地別日次有効求人件数
- 求人・求職
- 雇用者数・失業率
- モデル賃金

**投資**
- 地域別民間住宅総合指数
- 住宅着工
- 地域別民間企業設備投資総合指数
- 建築着工
- 機械受注
- 設備投資計画
- 地域別公共投資総合指数
- オフィス市況
- 宿泊施設稼働率



## 掲載データ

P.31

### 産業指標

**産業構造**
- 域内総生産
- 産業別事業所・従業者・売上高

**農林水産業**
- 農林水産業生産額

**建設業**
- 住宅着工
- 建築着工

**製造業**
- 品目別工業生産

**エネルギー・環境**
- リサイクル・廃棄物処理状況

**卸売・小売業**
- 商業立地

**金融業**
- 預金・貸出金

**不動産業**
- 地価マップ
- オフィス市況

**観光・レジャー業**
- 宿泊施設延べ宿泊者数
- 宿泊施設稼働率

**医療・福祉**
- 介護施設事業所数

### 社会指標

**新型コロナウイルス感染症**
- 国内感染データ
- ワクチン接種状況

**総合**
- 社会・人口統計体系（都道府県・市区町村のすがた）

**人口・世帯・労働力**
- 人口・将来推計（市区町村）
- 人口・将来推計マップ（市区町村）
- 人口・世帯構成マップ（メッシュ）
- 人口・世帯変化（メッシュ）
- 成長力分析（メッシュ）
- 将来推計人口（メッシュ）
- 人口移動（住基人口）

**国際化**
- 輸出入額
- 出入国者数
- 在留外国人

**行財政**
- ふるさと納税

### 経済トピックス

**九州経済ヘッドライン**
- 設備投資
- 新事業
- 海外展開
- 地域プロジェクト
- 閉鎖・廃止

## ご利用案内

P.32

- **賛助会員企業・団体（学生）が利用可能なサービス（人数制限なし）**
  - 掲載データ（全79種）全ての閲覧
  - 研究レポート（九州経済調査月報）の閲覧・ダウンロード
- **対応機器・動作環境**
  - パソコン、タブレットを推奨（スマートフォンも可）
  - ブラウザはGoogle Chrome、最新版Microsoft Edgeに対応
  - データのダウンロードの際には、Googleアカウントへのログインが必要です



## ご利用案内

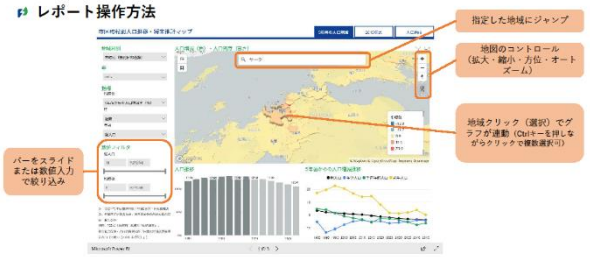
P.34

- **レポート操作方法**

## ご利用案内

P.35

- **レポート操作方法**






P.36

# Ⅳ.【グループワーク】データに基づく観光マーケティングの実践



## 【グループワーク】データに基づく観光マーケティングの実践

P.37

- アフターコロナの観光振興に向けた佐賀県の地域課題について、統計・データを用いて整理・立証し、課題解決に向けた方策を検討して下さい

【テーマ】

**A班：佐賀県に来訪する国内旅行者の動向について**

**B班：佐賀県に来訪する訪日外国人旅行者の動向について**

**C班：佐賀県内の観光産業に携わる事業所・人材について**



## A班：佐賀県に来訪する国内旅行者の動向について

P.38

- **県・月別延べ宿泊者数**（宿泊旅行統計調査、DATASALAD『宿泊施設延べ宿泊者数』）
- **県・月別日本人観光来訪者数**（デジタル観光統計オープンデータ、DATASALAD『観光来訪者数（デジタル観光統計）』）
- **宿泊者属性**（観光予報プラットフォームデータ、RESAS『From-To分析』）
- 余裕があれば、消費支出や物価に関するデータも

**分析のポイント**

- 日本人旅行者はGo Toキャンペーンや全国旅行支援終了後、どのような状況にあるか？
- コロナ前・コロナ禍（キャンペーン期）・現在で旅行者の属性に差は？（発地・年齢層・グループ構成など）



## B班：佐賀県に来訪する訪日外国人旅行者の動向について

P.39

- **外国人県・月別延べ宿泊者数**（宿泊旅行統計調査、DATASALAD『宿泊施設延べ宿泊者数』）
- **出入国者数**（出入国管理統計、DATASALAD『出入国者数』）
- **昼間・夜間別外国人滞在客数**（モバイル空間統計、RESAS『外国人滞在分析』）
- 余裕があれば、訪日外国人消費動向調査（観光庁）なども

**分析のポイント**

- インバウンドの回復動向に佐賀県と全国・周辺地域で差は？
- 国籍・地域による傾向の違いは？（来訪者数・訪問先など）



## C班：佐賀県内の観光産業に携わる事業所・人材について

P.40

- **業種別就業者数（九州）**（労働力調査、DATASALAD『雇用者数・失業率』）
- **推計年間給与額**（賃金構造統計調査、DATASALAD『モデル賃金』）
- **労働生産性**（経済センサス、RESAS『労働生産性（産業構造分析）』）

**分析のポイント**

- 受入体制（事業所数・従業者数）のコロナ前からの変化は？
- 観光の稼ぐ力（労働生産性）の他産業との差、過去からの変化は？

# 佐賀地域経済研究会 例会一覧

2023年度の地域課題討議は、新型コロナウイルス感染症が５類に移行したことを受け、『コロナ禍及びアフターコロナにおける観光動態と経済への影響』をテーマにしました。

■第236回 2023年10月18日(水) 14:40～16:40、佐賀大学経済学部会議室(参加者20名)

令和4年度地域課題討議・調査報告

「子育て世代へのデジタルを活用した情報発信の現状評価と今後の展望～佐賀県自治体(モデル2市)の取組みを中心に～」　佐賀大学経済学部教授　閔庚炫

■第237回 2023年12月20日(水) 14:40～16:40、佐賀大学経済学部会議室(参加者10名)

「人流データにみる観光行動の変容と観光地の対応」

公益財団法人九州経済調査協会調査研究部次長　松嶋慶祐氏

■第238回 2024年3月25日(水) 14:00～16:00、オンライン(参加者19名)

「佐賀県内の観光客の口コミサイトや SNS の利用状況―佐賀県鹿島市肥前浜宿を対象とした調査研究」

佐賀大学経済学部准教授　谷口みゆき

■第239回 2024年6月19日(水) 14:00～16:00、佐賀大学経済学部会議室(参加者14名)

「経済・観光統計の分析・利活用ワークショップ～DATASALAD・RESASを通じて～」

公益財団法人九州経済調査協会事業開発部研究主査　渡辺隼矢氏

『九州佐賀 総合政策研究』2024 年 第８号

KYUSHU SAGA POLICY STUDIES
ISSN 2433-426X

佐賀地域経済研究会は、「佐賀県内における地域経済問題に関する情報交換、研究を行うことにより地域の振興に寄与すること」を目的に 1989 年に発会しました。2023 年９月現在、佐賀県内全 10 市（佐賀市、唐津市、鳥栖市、多久市、伊万里市、武雄市、鹿島市、小城市、嬉野市、神埼市）の企画担当課、九州経済連合会佐賀地域委員会、佐賀大学経済学部の教員、その他数名の個人会員で組織を構成しています。

2023 年度（2023.07.01～2024.06.31）役員一覧

会　　長　佐賀大学名誉教授　平地 一郎
事 務 局 長　佐賀大学経済学部教授／佐賀大学経済学部社会課題研究センター長　平部 康子
事務局次長　九州経済連合会佐賀地域委員会事務局（九州電力株式会社佐賀支店）　永松　隆行

2024 年度（2024.07.01～2025.06.31）役員一覧

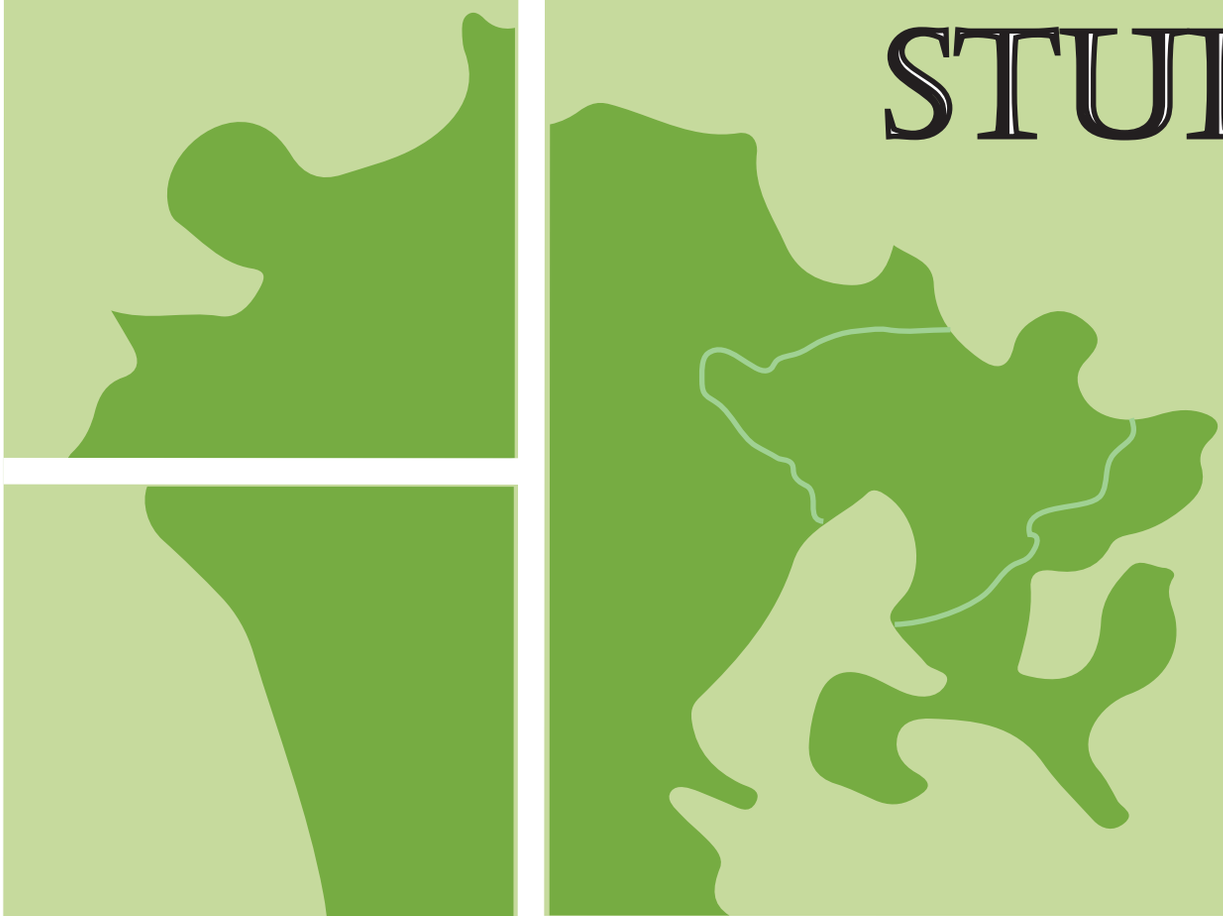
会　　長　佐賀大学名誉教授　平地 一郎
事 務 局 長　佐賀大学経済学部准教授／佐賀大学経済学部社会課題研究センター長　薗田　竜之介
事務局次長　九州経済連合会佐賀地域委員会事務局（九州電力株式会社佐賀支店）　川﨑　勇二

佐賀地域経済研究会では、2019　年度までは産学官連携提案による地域課題の中から、毎年、地域課題と連携自治体をあわせて選出し、そこで設定された地域課題調査に対して、調査・研究を実施し、同時に関連のテーマのもと例会を開催してきましたが、2020　年度からは、地域課題調査を地域課題討議に改めることになりました。地域課題討議では、年間の共通論題を設定した上で、事務局と幹事自治体が役割分担のもと、問題意識や事前の調査を例会に持ち寄って討議することになり、地域課題討議の成果は本誌に収録しています。

発　行：佐賀地域経済研究会事務局
発行人：平地　一郎
発行日：2024 年９ 月 20 日

※本誌掲載の記事や写真などの無断転載を禁じます。

# KYUSYU SAGA POLICY STUDIES



ISSN 2433-426X